

障がい者チャレンジトレーニング（職場短期実習）事業 好事例

（支援機関）障がい者就業・生活支援センター

1. 本人プロフィール	
障がい種類・程度	知的障がい（軽度）

2. 職場情報	
業種	製造業

3. チャレンジトレーニングの実施			
日数	9日間	勤務時間	8時間／日
実習内容	刃物製造工程でのバリ取り		
支援機関による 職場への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・企業側から、障がい者を積極的に採用したいとの話を受けて、近隣にある福祉就労支援施設（就労移行支援事業所、就労継続A型・B型事業所）の利用者を集めて企業説明会を実施した。その中で応募のあった方の中から実習者を選定した。 ・本人は、業務を覚えることに時間がかかるため、できる限り業務内容を固定するようお願いした。また、言葉による指示を理解することに難しさがあるため、言葉だけでなく実際に業務を行いながら説明するようお願いした。 		
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・実習現場には、複数の業務があるが、支援機関からのアドバイスに従って、バリ取りのみの作業内容に固定して実習を実施した。 ・担当者からの業務指示の際には、言葉と見本の両方で指示を出すようにした。 		

4. 就職後の様子	
仕事内容	刃物製造工程でのバリ取り
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・体調面において、些細なことでも変化があれば、本人から支援機関に電話するようにしている。 ・慣れない仕事だと戸惑うことが予想されるので、仕事は固定している。
支援機関による 就職後の定着支援	<ul style="list-style-type: none"> ・本件の関係機関であるハローワークと障がい者就業・生活支援センターのどちらか一方と企業が相談等を実施した際には、支援機関同士で随時連絡を取り合い情報の共有ができるようにしている。
チャレンジ トレーニング後の 職場の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・当初心配されていた体調面での不安は特にはない。 ・仕事も順調に取り組んでいる。 ・1年は業務を固定し、その後に支援機関と相談して他の仕事もお願いしたいと思っている。